環境保全

タラヒク村のゴムの木 (2016/06/22 訪問)

高山好主

ジェネラルサントスのホテルから車で約1時間半のコロナダル市とレイクセブ町の 中間で、タウォルの人達と待ち合わせをしました。その場所は、近くでは水牛に鋤を 引かせて田圃を耕しているお百姓さんがいました。私が子供の頃の風景とほとんど同 じです。違うのは鋤を引いているのが牛でなく水牛であることぐらいです。

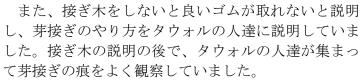
タウォルの人達はジープニーに満載でやってきました。一緒にタラヒク村を見学に 行きます。未舗装の道を約30分程度川に沿って(約10km)下ります。タラヒク村では苗 の畑とミミズの養殖場を見学しました。



ミミズにはいろんな種類がいて、肥料として使用するのは オーストラリア種とアフリカ種が適しているとのことでし た。この種は暑さに弱いため見学したときはいませんでした。 涼しくなったら購入して増やして使用するとのことです。



PFP農業専門家ニックの案内で、タウォルの人達と ゴムの林の見学。5から6mに成長しています。径は 10cmくらいになっています。ゴムの木は約2m程度の 高さまでは枝を落として樹液を採取しやすいようにし なさいとの説明をタウオルの人達にしていました。



ゴムの樹液の採取が始まっていました。受け皿はコ コナッツの殻を利用しています。これをペールに集め て出荷するとのことです。流れ出る樹液は乳白色です が、集めたものは黄ばんでいました。品質に変化がな いのか確認するのを忘れました。これから現金収入が 多くなることを期待しています。







スララ町タラヒク村のゴムの木植林とミミズによる土づくり事業は、2010年度の緑の募金交付金により実施しま した。2013年7月から始まった同じ緑の募金によるレイクセブ町3年継続事業(上記タウォルは3年目事業対象で 6月末に完了)に、受益者組合の管理が行き届いているモデル事業地域として、タラヒクでの一日研修を組み込み ました。最低6年を要する手入れの技術を学び、将来の実りへの意欲を高めることが目的です。 (事務局・山崎)

雨期で活気づくアグロフォレストリー事業地域 (レイクセブ町南西部2件、共有地含む計 60ha) モニター短信

タケヨン地区(対象20世帯)

昨年10月に事業を開始したものの、深 刻な干ばつで、苗木移植は雨期に入った 6月に始まったばかりです。苗の入って いた黒いビニール袋を括り付けた支柱が なければ、コーンの間に埋もれた移植済 ゴム苗に気づけなかったと思います。

ゴム等による収入が入るまでの数年間 は、副業の籐細工やティナラク材料のア バカなどが収入源となります。籐は往復 3日かかる村にしか残っていないためそ の買い付けで、父親が留守の家もありま した。 (三井物産環境基金助成2年目)



タケヨン地区の受益者20名中10名と 当団体モニターチーム、PFP スタッフ



の整地作業に参加のエルアリスの母子

エルアリス地区 (対象 20 世帯)

2年前に地球環境基金でゴム苗木を 植えたティヌオスに隣接のエルアリス に、20haは近い将来の収入源、ゴム・ バナナ・コーヒーを植え、10haの急傾 斜地にはナボルなど在来種の樹木を植 える事業です。ティヌオスと同じく、 ここでも先住民族学校ILSのアニータ 先生が、「子どものために森を残そう」 と父母への指導にも力を入れていて、 私たちのモニター時には、共有地の整 事業で支援したスコップを手に、共有地 地に、みんなで汗を流していました。

(イオン環境財団助成)